



第20回 まちのカルチャーカフェ

「はけの学校」連続講座 屋内編 はけの地図を描こう

国分寺や小金井から南に行くと必ず出会う坂道が、「はけ」と呼ばれる河岸段丘の一部。古代から現代まで、人々の生活を支えてきた「はけ」に注目しながら、私たちの未来を考えてみましょう。

話す人：安田 桂子さん（編集デザイナー）

椿 真智子さん（東京学芸大学教授 地理学）

日時：4月20日（金）
19：00～21：00

会場：東京学芸大学図書館カフェ
note cafe

参加費：一般 1500円
学生 500円
（ともに1ドリンク付）

問い合わせ：NPO法人東京学芸大こども未来研究所
Mail：machicafe.net.2018@gmail.com
HP <http://www.codomode.org>

●参加申し込み方法

下記のQRコードより
お申し込みください。

<https://ssl.form-mailer.jp/forms/3e092655512809>



▲申し込みはこちらから

主催：NPO法人東京学芸大こども未来研究所
後援：小金井市
協力：東京学芸大学/東京学芸大学図書館カフェ note cafe/多摩信用金庫

プロフィール

●安田 桂子さん

フリーの編集デザイナー。小金井を中心に様々な地図を作成している。2013年、こがねいフリーペーパー「184magazine (いち・はち・よん)」を立ち上げる。2016年、都市計画道路問題をきっかけに「はけの自然と文化をまもる会」を発足。生活者として「はけ」の魅力を伝えるべく活動中。

●椿 真智子さん

東京学芸大学教授(専門は文化・歴史地理学)。風土に根差した地域文化や、多民族社会とエスニック文化、移民、フロンティア、景観が主な研究テーマ。地域固有の文化の意味と持続性・継承性を重視し、文化地理ゼミの学生とともに大学キャンパスや周辺地域で市民向けスタディーツアーを実施してきた。

◆「はけの学校」について

武蔵野台地を古多摩川の流れが削り取ってできた河岸段丘である国分寺崖線は、湧き水と緑をたたえつつ立川から大田区まで約30Kmも連なり、東京都の景観基本軸にも指定されています。この崖の連なりを地域の人々は親しみを込めて「はけ」と呼んでいました。はけの学校は、この「はけ」の情報をアーカイブしつつ、崖線歩きやシンポジウムの企画、地図制作などを通して、周辺の地域連携を進めています。

「はけの学校」連続講座 屋内編に続き、屋外編 5月19日(土)13:00 開催予定



まちのカルチャーカフェとは

街には多様な人が住んでいます。そこに住んでいる人の生活習慣や好みによって街の文化が形成されます。一方で大学には、様々な知識が蓄積されていて、学びの場があり、文化につながる要素があります。そんな街と大学がつながるとどんな化学反応がおこるのでしょうか？

「まちのカルチャーカフェ」は、まちと大学をつなげる試みです。まちの人と大学の人が一いつのテーマで話をする事で、新しい発見や次の動きを誘発することを期待しています。一方的ではなく、お茶を飲みながら、時にはお酒を飲みながら、気楽な気持ちで興味のおもむくままに、会話を重ねることで、思いもしなかった街の文化が生まれることを期待しています。

2016年6月より、毎月1回、教育、人文、社会、自然、芸術、スポーツなど様々なジャンルの中から興味のあるテーマを選び、自分たちの暮らしとの関わりを大事にしながら、参加者といっしょに話をするライブスタイルで開催しています。

これまでの「まちカフェ」はこちらをご覧ください。 <http://codomode.net/machicafe/>